

◇ 「LPガス国際セミナー 2007」

平成18年度は、第12回目にあたり、『変化が予想される世界のLPガス需給動向—生産見通しと需要開拓—』をテーマとして「LPガス国際セミナー2007」の名称で、下記の通り開催しました。

記

1. 日時 :平成19年2月22日(木)～23日(金)
2. 場所 :第一ホテル東京(新橋)会議場
3. テーマ :変化が予想される世界のLPガス需給動向—生産見通しと需要開拓—
4. 参加国等 :サウジアラビア、クウェート、アルジェリア、ブラジル、中国、韓国、インド、パービン&ガーツ社、世界LPガス協会、ベルゲセン・ワールドワイド・ガス社、アーガスメディア社
5. 開催状況等 :

セミナーはLPガス生産国及び消費国からの招聘者、各国大使館、経済産業省、LPガス業界関係者等が出席し、当センター理事長が議長となり進行し、各講演の後、会場出席者と講演者等で幅広く活発な意見交換・討論が行われました。参加者は例年以上の約340名を数え、会場は盛大で活気に満ちあふれていました。

特に今回はエネルギー価格が短期的には高止まりが想定されてはいるものの、LPガスの供給能力は中期的に拡大する見通しの中、研究機関、生産国、消費国等、全ての海外講演者を交えた「総括質疑応答」が初めて実施され、世界のLPガス産業の今後のあり方について、示唆に富む討論がなされ意義深いセミナーとなりました。

また、セミナー初日終了後のレセプションでは、経済産業省資源エネルギー庁から岩井資源エネルギー部長に歓迎のご挨拶を頂き、引き続き来賓として今回初めて参加頂いたアルジェリア及び昨年引き続きアラブ首長国連邦、両国の駐日大使も加わり、盛大なレセプションとなりました。

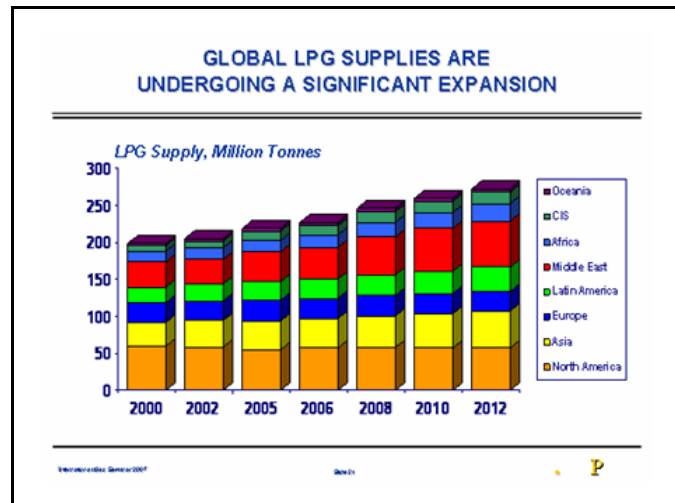


6. 講演内容等

1) 基調講演:パービン&ガーツ社 上級副社長 K. W. オットー氏)

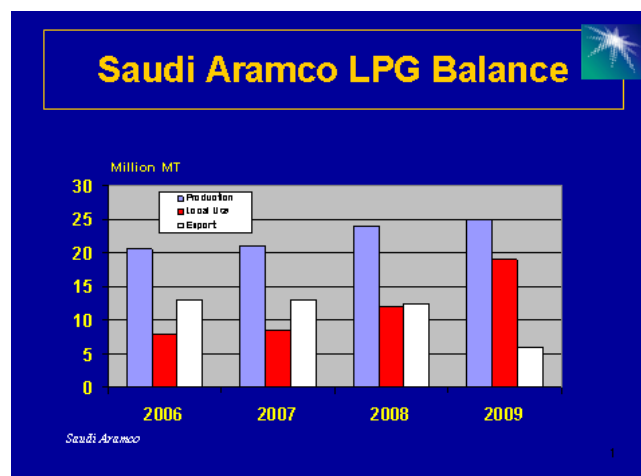
- ①LPガスの高価格は原油と天然ガスの高価格に支えられており、新しいLPガス供給の参入を促す一方、発展途上国の市場の成長を阻害する面もある。
- ②原油増産に伴って中東のLPG供給も増え、長期的には新規LNG開発による供給の増加も見込まれる。2010年まで供給は拡大し、2006年比3千万トンの増の2億6千万トンになる。
- ③供給の増加は基礎需要の増加を上回り、国際LPG市場は需要主導型から供給主導型に変わっている。
- ④LPGの需要で特に伸びるのはアジアの民生用と中東の化学原料用で、即ちスエズ以東で急速な伸びが見込めるが、供給の伸びが需要に追いついてきており逼迫感は解消されている。中東の供給増加は域内の化学原料用需要に吸収され、横這いの見通し。

- ⑤供給増によりLPG価格は軟化するであろう。特に原油価格が下落すればLPGも下がる。但し、昔のような価格には戻らない。



2) サウジアラビア(サウジアラムコ社): サウジペトロリアム東京副支社長 アリ・アルマスード氏 他

- ①サウジアラビアのLPG生産は現在の約2,000万トから2009年までにほぼ2,500万トに増加するが、国内需要は、2006年の800万トから2009年には1,900万トに増加すると予想される。これは石油化学原料としての需要が増加するためで、2009年の輸出余力はわずか600万トになってしまい、現在のレベルから700-800万トの減となる。
- ②サウジのLPG輸出余力の予測がどちらの方向に振れようともアラビア湾からのLPG輸出が2009年ないし2010年までに大幅に増加することは確かなようで、それはアジアの市場氾濫させ地域のLPG価格や既存の価格システムを破壊することにはならない。
- ③世界のガス系燃料の市場は急速にタイト化している。米国は昨年約1,300万トものLNGを輸入し、中国は昨年からLNGの輸入し、その量は2010年に600万ト、2015年には1,200から1,800万トに達すると見られる。そしてLNGの需給がタイト化すればLPGへの需要も増加する。
- ④LPG価格は原油や石油製品に比べ控えめに推移している。2002年から2006年の日本着の原油とナフサは143%と137%の値上がりでしたがLPGの値上がりは95%と比較的低めでした。これに対して出席者からはいろいろな意見が出された。



3)クウェート(KPC社)

①各種プロジェクトの推進により輸出量は、現状350万トから2010年に550万トに拡大する。

4)アルジェリア(ソナトラック社)

①輸出量は現状の800万ト弱から、2011年には1,100万トに増加する。

②ソナトラック社は、海運力強化等により地中海を中心とした市場から、他遠隔地域へ事業を展開している。

5)ブラジル(ペトロプラス社)

①ブラジルのLPガスの国内生産は年々増加し、今後輸入量は減少傾向にある。

②ペトロプラス社は、南半球の季節性を利用したアービトラージ取引の推進等により世界戦略を展開している。

6)日本(石油化学向けLPガスについて(株)ダイアリサーチマーテック 後藤氏)

①湾岸産油国では、2000年以降エチレン生産能力を増強、2007～8年以降も急増する。

②石油化学用の原料としてプロパンはナフサより割安である。

③エタンが石化用原料として限界のため、プロパンがエチレン原料として使用が増加する。

7)中国(中国ガス協会)

①LPガス消費は増加するが、国内生産も増加するので、輸入増加は頭打ちである。

②LPガスは天然ガス、石炭ガスと補完的關係で共存している。

8)韓国(韓国商工エネルギー省 ガス産業チーム)

①LPガス事情は、日本に酷似の状況だが、オートガス(ブタン)については国の助成等により一定の普及状況を確保している。

②今後は、LPガスとLNGはバランスのとれた競合關係を維持することとしている。

9)インド(インドオートガス連盟)

①インドでは、公害対策でLPガス自動車が増加し、オートスタンド等のインフラの整備を急いでいる。

10)世界LPガス協会

①欧州では、環境に優しいLPガス車の普及の可能性が高い。

②発展途上国では、LPガスはルーラル(農村部)エネルギーの潜在性は高い。

11)ベルゲッセン・ワールドワイド・ガス社

①LPガス市況は、当面乱高下が続くと予想する。

②暖冬による消費減・在庫高となれば、荷動きが低下し船舶市場は低迷する。

③2008/9年の新造船の大量就航は、LPガス需要拡大により漸次吸収される。

12)アーガスメディア社

①同社の Far East Index (LPガスの極東先物指標)が輸入業者間で普及している。

②同社の JexT Index(日本LPガス基地渡し価格)について提案・PRした。